



発行所
日刊自動車新聞社
〒105-0012
東京都港区芝大門1丁目10番11号
電話 東京 (03) 5777-2351 代表
©日刊自動車新聞社2025

7月9日
(水曜日)

非自動車向け強化

ソライズ 生成AIを活用

製造現場の課題解決へ

設計・開発の受託事業を手掛けるソライズホールディングス（HD）は、人工知能（AI）を軸に非自動車向け事業を強化する。これまで培ってきた工程管理のノウハウを生かした製造業向けAIソリューションを展開しており、製造現場で不具合発生時の対応を効率化できるツールとして、自動車メーカーやサプライヤーへの導入に加えて、自動車以外の製造業もターゲットに提案を本格化する。これにより2033年までにコンサルティング事業全体の売上高比率で、3割程度にとどまる非自動車系を半数まで引き上げていく。

同社は自社開発の自然言語処理エンジンを搭載したAIソリューション「スペクタ」シリーズを展開している。24

年4月にはデータを動的に管理する「スペクタDKM」（ダイナミック・ナレッジ・マネジメント）」の提供を開始。一部の自動車メーカーのほ



生成AIの活用で製造現場の不具合対応を効率化する（イメージ）

か、センサーなどの主要サブライヤーに採用が広がっている。

スペクタDKMの特徴が、ノウハウの動的な活用だ。製造現場では技術要件・ライン要件などのデータや、報告書などを通じて集まる定性的な知見、熟練者の属人的な「暗黙知」が十分に整理されないまま膨大化し、トラブル時に迅速に参照するのが難しかった。新サービスでは、生成AIを活用した横断的な検索や、課題解決手法の自動作成・提示により、手戻りが削減できる。さらに危険予知支援ツールなど別のサービスと組み合わせ、製造工程全体の効率改善を図ることも可能だ。

自動車産業に強みを持つ同社グループのコンサルティング事業は、自動車業界向けが

売上げの約7割を占めている。当面はデジタル・トランスフォーメーション対応を急ぐサプライヤーなどが主な顧客となる見込み。ただ、AIソリューションは業種を問わず活用できるため、建設業界など他業種にも商機があると見ている。最新のスペクタDKMを活用し、今後は自動車

以外への提案も積極化。33年までに非自動車系の売上高を5割に引き上げていく考えだ。

7月にコンサルティング部門を分社化して設立したソライズ・ユリカ・テクノロジーの堤寛朗社長は「10年以上前から構想し、生成AIの普及でようやくサービス化が実現した。スペクタDKMの採用実績はまだ数社だが、これまでに自動車業界向けで培った対人コンサルティングと組み合わせつつ、業種を問わず展開していきたい」と述べる。

日刊自動車新聞社が記事利用を許諾しています。

掲載日 2025年7月9日 日刊自動車新聞 3面 ©日刊自動車新聞社 無断複製転載を禁じます。